

Vol.14 食支援とは何か？

食支援は「笑顔」を目指す

専門職にとって食支援の目的は何かと尋ねると、異口同音にそれは「笑顔」であるとの答えでした。口の機能が改善しても、好きなものが食べられない、食べる気がしない、それでは幸せではありません。美味しく楽しい食事を食べてはじめて、笑顔になります。

食べることは「生きがい」

人生100年時代は、生きがいを最期の瞬間まで追求することが大切です。日本在宅ケアアライアンスは、QOLの“Life”はいのち、くらし、生きがいとし、食べることを生きがいそのものであると考えます。

食支援は多職種協働が大原則

くらしの場で、食支援が必要な方の多くは低栄養状態です。その原因は、医学的な問題だけではなく、孤食など社会的な課題もあります。したがって、食支援は多職種でケアチームを構成して行う必要があります。

食支援の概念を整理

それぞれの専門職種間において、食支援の概念が必ずしも統一されていないような印象をもちます。日本在宅ケアアライアンスは多職種が集う日本で唯一無二の団体として、さまざまな専門領域の方々と意見交換をしながら、食支援の概念整理を始めました。

食支援：4つの要素

食事・栄養

栄養評価を行い、適切な栄養摂取の方法を考えます。食材調達も食支援の一部となります。食形態の工夫も必要です。

食べる力

口腔の機能を評価し、改善して、食べる力を高めます。

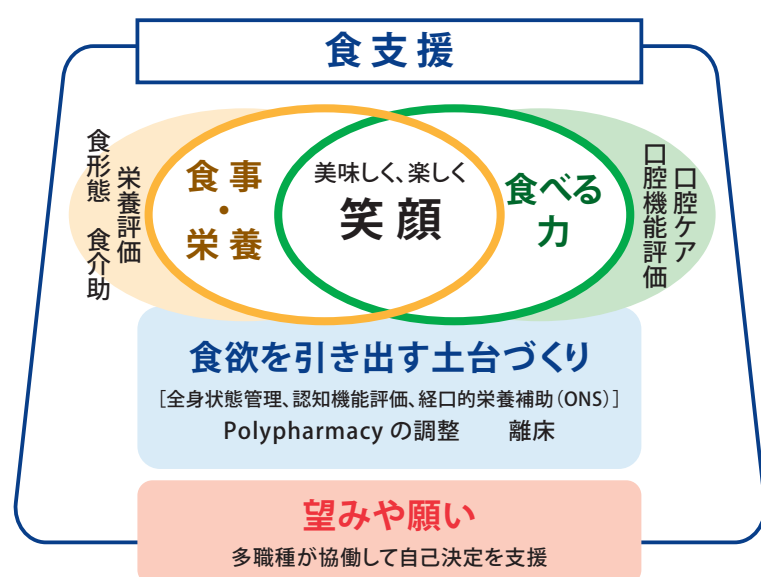
食欲を引き出す土台づくり

薬剤は食欲に影響を及ぼす影響もあり、特にポリファーマシーの調整は大切です。また、脱水や便秘のケアも必要で、ONSを利用して、全身状態を改善すると、食べる意欲もわいてきます。

望みや願い

「食べたい」望みを叶える必要があります。しかし食事がリスクとなることもあるので、多職種で協働して、本人の自己決定を支え、それを実現させるお手伝いをします。

■ 食支援 概念図



ONS : Oral Nutritional Supplements , 経口的栄養補助

多職種で食支援

医師
歯科医師
管理栄養士
薬剤師
看護師
リハ職
歯科衛生士
介護職
ケアマネジャー
他

キーワード

食べる力

口腔リハ(咀嚼・食塊形成・嚥下機能改善)
歯の治療 義歯への対応
口腔の衛生 姿勢保持

食事・栄養

食材調達 調理 食形態
食介助 栄養指導

食欲を引き出す土台づくり

Polypharmacyの調整
全身状態の管理(脱水や便秘などのケア)
離床
経口的栄養補助(ONS)の活用

望みや願い

生きがい 本人にとっての最善
家族の理解

監修：日本在宅ケアアライアンス

監修：
一般社団法人
日本在宅ケアアライアンス

前田 佳予子 先生
管理栄養士
日本在宅栄養管理学会
理事長



三木 次郎 先生
歯科医師
全国在宅療養支援
歯科診療所連絡会 会長



武田 俊彦 先生
元厚生労働省医政局長
岩手医科大学客員教授



太田 秀樹 先生
医師
全国在宅療養支援医協会
事務局長

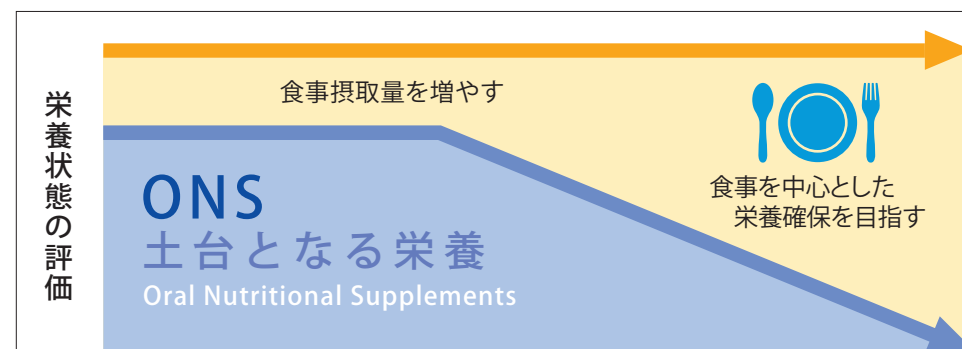


歯科医師が期待する多職種的主要役割

医師	全身状態の管理や指示
歯科医師、歯科衛生士	口腔の器質的問題を含めた口腔機能の評価・改善
薬剤師	薬剤の食生活における影響の評価・改善
管理栄養士	栄養状態の評価、口腔の機能にふさわしい食形態の提案・調理
訪問看護師	一番身近な医療職として、本人・家族の食に対する考え方や嗜好を多職種に伝え、共有
介護職	食事の環境を整え、安全で美味しく楽しい食事の介助
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	身体運動機能の評価と安全な食事のための姿勢の指導、食べる力の訓練・強化
介護支援専門員、社会福祉士	孤食などを含めた生活者としての社会的課題の解決、住環境の整備

三木次郎先生 作成

食支援の土台づくり ~栄養状態の改善~



- 病院での急性期治療を終え、地域で療養生活を始めるために口から食べる力を回復させることは、大変重要なことです。
- 経口的栄養補助製品の活用も一つの方法として検討しましょう。

エピソード ~食支援の例~

前田佳予子先生 ご提供

療養者は99歳の女性、医師の診断は誤嚥性肺炎、アルツハイマー型認知症である。医師は誤嚥性肺炎のため、口から食べさせることを禁止していた。

食を食べることが一番の楽しみだった母親に、何も食べさせてあげることができず、家族はがゆい思いをしていた。せめて、最期に大好きだったコーヒーフロートを食べさせてあげたいとの家族の願いがある。

食支援と笑顔

そこで医師の助言のもと、看護師、ST、管理栄養士がケアチームを構成し、その願いを叶えることとなった。舌はすでに萎縮していたが、コーヒーフロートを綿棒でせて広げると、笑顔が戻った。

長男・長女・次女が交代で口に運んだ。同時に専門職は誤嚥のリスクを考え、いつでも吸引できるような体制を整えていた。

最期まで口で味わうという支援を通して、家族も医療専門職も大きな満足があった。

アボットジャパン合同会社

東京都港区三田3-5-27

[お問い合わせ・資料請求先] お客様相談室：フリーダイヤル 0120-964-930

2022年7月作成
JP202228186ENH1CDA



資料請求はこちら

